

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201967		
法人名	有限会社 ユニ		
事業所名	グループホーム パール針尾(Aユニット)		
所在地	〒859-3451 長崎県佐世保市針尾東町2162-1		
自己評価作成日	令和4年12月30日	評価結果市町村受理日	令和5年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 5年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」を理念として、日常生活の中で起床時毎朝、居室の洗面所でご自分で洗える所まで洗って頂き、どうしても出来ない所は介助させて頂いています、職員と一緒に日に2回廊下での歩行訓練、時には窓ぎわの手すりを持ち日差しを浴びながら足踏み運動行い、いつまでもご自分の足で歩けるように自立支援を行っています。コロナ禍で県内外の家族との面会の出来ない為、ライン電話でのお話が出来るように対応しています。施設での日頃のお姿を動画撮影編集後は家族様との公式ラインにて動画をお送りしています、家族様より、以前より元気な姿が見れる事が嬉しいですし喜びの言葉を頂きました、又退所された方の動画も編集後、家族様にお送りすると元気な頃のお母さんの笑顔を見る事が出来たと皆さん喜ばれ感謝の言葉をいただきました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺は、西海橋等の名所が多く、コロナ禍でも状況を見ながら花見やドライブなど個別支援を多く行い、利用者の楽しみとなっている。管理者と職員は理念の「ゆっくり、一緒に、楽しく」を合言葉に、利用者が前掛け姿で野菜の皮むきや下準備をしたり、体操を行うなど、活気ある生活ぶりが覗える。毎月のホーム便りには写真や管理者と担当職員が個別のコメントを記し、家族の安心に繋げている。また、運営推進会議は書面会議であっても、参加者全員から意見や質問などの返信があり、双方の情報交換が詳しい議事録で確認できる。給食委員会が栄養バランスを考え、調理専門職員が作る食事は、味も彩りもよく利用者と職員の楽しみである。利用者の得意な力を活かし思いに寄り添う支援で、笑い声が溢れ、安心して暮らせる家庭的な事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、一緒に、楽しく」の理念を職員一同共通意識として入居者様と一緒に話しながら筋力低下しない様に一人一人のペースに合わせて歩行訓練をしています、コロナ禍で大きな声は出せませんが一緒に体操、歌番組をみて過ごしています	開設当初からのわかりやすい理念「ゆっくり、一緒に、楽しく」は、利用者と職員が生活を共にする上での基本であり、職員は支援に繋げている。歩行訓練の他、本人が役割を持ち、得意なことを伸ばす生き甲斐のある暮らしなど、習慣やペースに合わせたケアの実践は、理念の具現化がある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との交流は出来なかったが針尾地区の防災訓練に参加させて頂き今後、災害などがあった時に連携が取れるように地区の人とお話する事ができた	自治会に加入し地区長や民生委員等から、地域の情報を得ている。地区の防災訓練に参加し、災害時に住民の協力を依頼するなど更なる地域浸透に取り組んでいる。コロナ禍で現在は中断している地区のハッピーサロンの再開を利用者と職員は待ち望んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で針尾「ハッピーサロン」も3年間程参加出来ていない、入居者様は地区の皆さんと体操、お話ししながらの、お菓子、お茶を飲むのが一番の楽しみで参加されていたので参加できないのは残念です。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月一度の運営推進会議はコロナ禍で施設で開催する事が出来ず、施設での状況報告など書面会議でアンケートの協力をお願いし、ご意見を頂いています。	年6回、規定の参加者で現在は書面会議である。事業所の状況、行事、研修内容他、特に事故報告は、内容、要因、改善策の記載もあり、参加者全員からの意見や質問など詳細な議事録で確認できる。コロナ禍でも外出や行事を工夫し実施する職員への労いの言葉もある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ここ2年間は新型コロナウイルス感染症対策における入所者のワクチン接種に至るまでの施設の対応の仕方等について頻繁にメールのやり取りをして頂いた。また、市の社協には入所者の方の通帳と金銭管理もお願いしている。	介護保険の申請や手続きには支所へ出向き、市からの連絡等はメールやFAXで頻繁にやり取りを行っている。また、利用者に関して担当職員の訪問もある。包括支援センターや市社協とも連携し、協力関係を築いている。県や市主催の研修はリモートで数多く受講している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会があり、職員全員が身体拘束をしないケア目標にし、センサーマットは使用せず、頻回の見回りと物音にて対応しています。玄関の施錠は行っていない不適切な言葉掛けに対してスピーチロックがある時は職員同士で注意している	身体的拘束等の適正化のための研修を定期的に開催し、拘束の無いケアに努めている。身体拘束廃止委員会が、不適切な言葉遣いのアンケートを実施し、職員自身が振り返り会議で発表し、検討している。玄関の施錠は夜間のみで帰宅願望あれば見守り支援で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍で外部研修会には参加していないが施設内で不適切ケアをしない、させないを職員同士で周知し、不適切な言葉があった場合にはその都度注意し合えるような取り組みに努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍で権利擁護に関する制度を学ぶ機会が取れない状況である。、施設で後見人制度を利用されている方がおられるが後見人との話す機会が少なく詳しい内容の把握は難しい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際には、契約書を読み上げ途中説明を加えてながら、質問がある時にはその都度説明を行い納得された上での契約に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する要望や意見は玄関に意見箱を設置したり、来所された時、電話された時に直接お話しする事によって運営に反映させている	入居時に外部相談窓口の説明を行い、家族の要望等は訪問時や電話で気軽に話してもらえよう努めている。毎月のホーム便りの管理者と担当職員の個別のコメントは、家族等の安心に繋がり好評である。面会は窓越しや玄関ドア越し、公式LINEで動画を送るなど工夫がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議で、その月の行事反省や今後どのような支援に向けて職員で話し合い、職員の要望や意見を聞く様にしている。	職員は月1回の全体会議や、ユニット会議で意見や要望等を表出しており、今年度は医療用マスクの購入に反映されている。年1回、代表との個人面談があり要望など伝える機会もあり、職員の意欲や向上心を応援する職場環境を整備しており、職員同士のチームワークも良好である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の日頃の勤務状況を管理者に話を聞き努力や、やりがいなど、各自が向上を持って働けるよう条件のい整備に努めてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で、法人内外の研修、参加はできていないが、積極的にリモート研修参加出来るよう確保に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で東部ブロックでのフリートークの研修会は開催されていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、本人様の状態を把握する為に、訪問させて頂き面談の場で要望や困っている事を伺います。本人、家族様が安心される様に、施設見学をして頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学に来られた際に、家族様の要望を伺い、安心して頂ける様にお話をしながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	説明の際、施設での受け入れが難しいと判断した場合は、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場において、ご本人の得意とされている事も見極め、(食事の下ごしらえなど)職員と一緒にすることで、共に助け合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ渦で面会も思う様にできていませんが、県外の方や来ることが出来ない方に対しては、公式ライン電話を利用して顔を見ながらお話出来る様に支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦であっても、感染対策をしながら事務所で、ご家族、姉妹様の面会が出来る様にしています。その際に写真撮影、動画撮影を行い、編集後家族様にお送りしています。	コロナ感染状況を考慮しながら、可能な限り面会できる工夫がある。窓越しや玄関のドア越し、公式LINEの動画配信などにも柔軟に対応し、家族との繋がりを大切にしている。馴染みの美容室に通ったり、公園や馴染みの場所へ外出した時は写真を撮影して家族へ送り、本人の居室に飾っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず 利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努 めている	自室で塗り絵をされている方には、お茶、お菓子 を持参し、声掛けをしたり、リビングでは、決まっ たソファに座って頂く事で利用者同士と一緒に テレビを見たり、レクリエーションの時など利用者 同士が関わり合い、支えあえるような支援に努め ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性 を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	入院治療の為、退所された方の家族様には、そ の後の状況をお聞きして、必要に応じて相談や 支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努 めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、ご家族、本人様より、自宅での様子や暮 らし方の希望や意向をお聞きしている。入所後、 生活の様子や会話の中でご本人の思いや意向 に添える様、検討し、その方にあった介護に努め ている。	職員は利用者の生活歴や習慣を把握しており、ア セスメントシートで情報共有している。難聴が強度 の場合はホワイトボードで筆談している。新たに得 た情報は申し送りや個人記録に追記し、利用者の 得意なことを役割分担し、意欲や張りのある暮らし ができるよう支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、こ れまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所希望があった場合は、ご家族、担当ケアマ ネジャーから情報を頂き、ご本人と面談をお願い し、生活歴、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等 の現状の把握に努めている	一人ひとり担当職員を決め、利用者の心身状態 等を把握し、ケースに記録する事で現状の把握 に努めている。月1度のカンファレンスで一人ひ とりの状態把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につい て、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの 意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作 成している	本人がより良く暮らすためには、月1回のカンファ レンスで経過や問題点など話し合い、利用者によ っては、3ヶ月、6ヶ月に1度モニタリングを行い 家族、本人の意見や要望も取り入れ現状に応じ た介護計画を作成している	介護計画は、利用者や家族の希望を取り入れな がら、必要なケアを目標に掲げている。初回は1ヶ 月を目安にその後3ヶ月6ヶ月で見直している。職 員は、毎月カンファレンスで支援状況を共有し、担 当者がモニタリング評価を行っている。支援の実 践状況をわかりやすく記録し、現状に即した介護 計画である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別 記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介 護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状況を職員は日誌、ケースに記録 し職員間で情報を共有しながら介護計画の見直 しに生かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を理解しながら、定期受診は施設職員が付き添う様になっているが専門医への受診は家族の方が基本であるが、遠方の家族方の状況も理解した上で家族が安心される様に職員が付き添うようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は、月2回の3B体操、地区のサロンにも参加していましたが、コロナ渦になり、地域との交流は出来ていません		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度の定期受診に出かけている。歩行困難方は施設の車、他の方は病院マイクロバス使用しています。体調に異常がみられた場合には、電話で報告、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と本人に病院受診の意向確認を行い、希望に沿った受診を支援している。通常、受診は職員が同行し、状況に応じて家族の受診協力を得ている。受診結果はノートに記入し、職員間で情報共有を行い、家族に連絡している。夜間や緊急時にも適切な医療を受けられるよう、体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、利用者の日常の状態の変化や気づきがあった時には、医療機関に報告を行い、適切な受診、介護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際には、時々連絡し状態把握に努め、早期に退院出来る様に病院との情報交換や相談しながら関係づくりを行っています。利用者の異常がみられて時も早期に受診できる様にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、ホームでの重症化になった場合の対応については、説明を行って納得されていますが、家族の中にはホームでの生活を望まれている方もおられます、出来る範囲で対応し説明をしながら方針を共有し支援に取り組んでいる	入居説明時、契約書において“重度化対応に関する考え方”として、事業所における重度化や終末期に向けた方針を説明している。事業所で対応できる限りの環境を整備し、本人にとって最善の支援となるよう検討し、医師や家族と情報共有しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ渦で消防署等での研修参加は出来ていませんが、施設内で(youtube)を利用し急変時に備えての対応の仕方の研修を行い身に付けています。日頃から利用者の状態を把握し、異常が見られた時は早急に対応出来るように備えている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災に備えて避難訓練は年に数回、夜間帯の想定で行い、水消火器の訓練もしている、消防署との協力をお願いし立ち合いのもとでの訓練指導受けています。地区の防災訓練にも参加し地域との繋がりを築いています。火災を未然に防ぐ為にも毎日火の元の点検もしています。	地域の防災訓練に職員が参加し、火災時の地域連携内容について訓練し、自然災害時の連携についてはこれからであるが、地域連携を構築している。年2回、火災訓練を行っている。消防署の立会いの下、夜間想定を行いアドバイスを得ている。ただし、台所が出火元の夜間想定での避難訓練が続いている。	夜間想定は重要であるが、人数の多い日勤時の動きの確認や台所に限らず出火原因、場所の想定を変える等、更なる取組に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、その方にあった言葉かけを行っています。プライバシーについては、排泄の際は各居室に設置されている、トイレ使用時はカーテンを閉めて離れた所から見守りを行いプライバシーを損なわないようにしている。	職員は、生活習慣や羞恥心など利用者の人格を尊重した支援に取り組んでおり、本人の意欲を見守り、さりげないフォローに徹している。トイレ介助や入浴支援では、バスタオルで肌の露出を防ぐなど、職員は自らの親がされて嫌なことはしないという思いで支援している。書類等の個人情報は適切な場所で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で話しやすい状況をつくり、しっかり耳を傾け(電話したいとの)要望があればかけて頂いている。自分の意志を思う様に伝える事が困難な、利用者さんがひとりで動かれる時には、静かに付き添いを行いその方のペースを大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり、どう過ごしたいか尋ね(聖書読む、漫画本を読む、塗り絵、歌番組をみる、)その方の要望を取り入れた、一日を過ごして頂く様に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台に座らると髪が気にされる方には、その都度、ブラシで整えて頂くと(綺麗になった)と笑顔がみられています。外出の際にも季節に応じた身だしなみ、おしゃれが出来るように支援しています。夕方には皆さんパジャマに更衣して頂きゆっくり休める様に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が一緒にその日のメニューの野菜の下ごしらえのお手伝いをして頂いています。毎食後テーブル拭き、食器拭き、お盆拭きは職員と一緒にやっている。話の際に、何か食べたい物がありませんかとお聞きし献立に取り入れています	野菜の下準備など利用者も得意なことを手伝っており、前掛け姿でイキイキとした姿が印象的である。職員は、利用者が美味しさを味わえるよう、盛りつけの工夫や好き嫌いの代替えなどに対応している。季節行事の特別メニューや地元なじみのおやつ作りなど食事を楽しむ支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調や習慣に応じた、食事量、形態に配慮して提供しています、食事、水分量は個別に記録を行い、水分量が少ない方に対しても、こまめに提供しています。水分摂取量も主治医に報告し確認しながら提供しています。牛乳を飲めない方には別の飲み物を提供しています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きは、毎食後居室の洗面所に誘導し行い、一人ひとりの力に応じた支援を行っている。必要に応じて、磨き直しや義歯の洗浄も行っています。自立されている方に対しても歯磨きされたかの確認もしている、週1度義歯の洗浄剤、歯ブラシなどの消毒行い清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	他の施設から来られた方で、リハビリパンを使用されていたが、入所されてからは、布パンツ、パット着用し定期的な声掛けをする事でその方の排泄パターンを把握し誘導する事で尿失禁もなくなり、自立に向けての支援につながっています。	トイレで座位による排泄を支援している。排泄支援状況は個別に記録を行い、利用者の状況に応じた支援に取り組んでいる。記録状況を基に、個別の支援内容を検討している。失禁をしないよう時間や様子を見て声を掛け、本人が快適な日常生活を過ごせるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳、豆乳の提供と夜間帯の水分補給も行っており、毎日の水分量の調整を行いながら、歩行運動を行い朝食後は、ゆっくりトイレに座って頂き排泄を促す様にしています。便秘が改善がない時は、内服薬を処方して頂き、スムーズ排泄出来るように取り組んでいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午後からとなっています、お風呂の声掛けに、(もう入りました)と断られる事も多く順番を代えたり、声掛けの工夫しながら入っていただくようにしている、入浴されない時は清拭、下着交換を行っている。足先の血色不良、痛み、水虫がある方は入浴がない時は足浴している。	毎日午後から入浴準備を行っている。一日おきに声をかけ、利用者の意向を優先に入浴支援を行っている。毎日入浴も可能である。入浴できない時は、清拭や足浴など清潔保持に努めている。入浴剤を入れたり、入浴時のおしゃべりなど、利用者は入浴日を楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングで居眠りされている方、腰痛があらわれる方で自分から(あっちで横になりたい)と言われる時には臥床、休息の時間を取り入れています。夕方には皆さんパジャマに更衣を行い、ゆっくり眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用は職員に申し送りを行い、初めて服用される薬に対しては副作用や症状の変化を早めに気付けるように観察している、毎食後服薬の際には名前の確認を2名で行い、飲み込まれるまで見守り確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵や季節の作品、飾り作り、食器拭き、洗濯物たたみ、紙ちぎりなど用意し役割や楽しみ出来るようにしている。趣味のお茶をたていただき、皆さんに振る舞われた、本人も生き生きしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦であり外出支援は出来ませんが、人混みの少ない場所を検討し季節に応じた（桜、コスモス、紅葉）花見、ドライブに出かけています	コロナ渦で以前のような外出ができなくなっている。その中でも、月1回は外出できるよう、少人数や車中からの花見など検討し実行している。日常的に敷地内で茶話会を開き、気分転換を図っている。桜やひまわりの花見、西海橋記念公園へのドライブなど、利用者の生き活きとした写真から、外出の工夫例を多く確認できる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布を持たれている方に対しては、置き忘れがあった時に一緒に探してどこに入れてあったかを職員に報告して、再度置き忘れがあった時に直ぐに発見出来るようにしている。買い物の要望があった時は事務所の預り金で購入出来るようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で携帯電話、タブレットを持たれている方にはライン電話の着信が来ているか確認し、ビデオ電話の接続を行っている。電話の要望があった時は自室で電話したり、ライン電話で顔を見ながら嬉しそうにお話されています。家族からの要望があった時もライン電話出来るようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の下駄箱の上には花や植物、置物が飾られ、廊下には季節ごとの飾りが飾られている。利用者の貼り絵も飾られている。感染対策として定期的に換気と手すり消毒を行い居心地良く過ごせる様に工夫をしている。	玄関やリビングには季節の生け花があり、手作りの作品を飾っている。キッチンから調理の匂いや音が聞こえ、利用者が洗濯物たたみやゴミ袋作りの役割を持ち、張りのある暮らしぶりが覗える。職員が定期的に掃除や換気を行い清潔を保持しており、新聞やテレビ鑑賞など、好きな場所で寛げるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、自分が座る場所が決まっており、ソファでは気の合った利用者同士で歌番組を見ながら一緒に歌ったりされています。自室では、塗り絵、漫画本、聖書を読んだりしてそれぞれの生活を生活で過ごすように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族に相談し、自宅で使用されていた、椅子、テレビを置き、ゆっくりやすめる様に、使い慣れた枕、クッションを置くことで落ち着ける場所になっています。仏壇を置いて、毎朝（ご飯、お茶）をお供えしてお参りされています。	居室は、トイレ洗面所、ベッド、クローゼットの設置があり、自宅に近い環境を作るために、仏壇、テレビ、愛用の毛布や枕、本、雑誌、大きな時計、椅子などの持参がある。家族の写真や塗り絵、作品を飾り、家具の配置も本人の状態に合わせてさまざまである。掃除や換気も職員が行い清潔で、寛げる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入口には、手作りの表札をかけ、自分の部屋と分かる様にしている。毎日職員と一緒に廊下を利用して歩行訓練、手すりを使っての足ふみ運動をする事で筋力低下の予防をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201967		
法人名	有限会社 ユニ		
事業所名	グループホーム パール針尾(Bユニット)		
所在地	〒859-3451長崎県佐世保市針尾東町2162-1		
自己評価作成日	令和4年12月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 5年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは西海橋と針尾無線塔の中間に位置し、自然豊かな環境の中にあります。「ゆっくり、一緒に楽しく」の理念を全職員が共有し、入所者様のペースに合わせて支援を行っております。食事は調理専門の職員が旬の食材を使い、食事形態や食事内容も入所者様に合わせて減塩や刻みなど、咀嚼や嚥下、健康面に配慮して手作りで提供しており、入所者様にも食材の下ごしらえを手伝って頂いております。他にも食器拭きやお盆拭き、洗濯物畳みなど担当を決めて役割として行っています。ご自分のペースで生活して頂いておりますが、自然とリビングに集まり、体操や歌、ゲームなどに参加され仲良く過ごされています。また、月1回気分転換として近くの公園や隣の町までドライブに出掛けています。コロナ禍で現在中止となっているサロンへの参加も行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践にっている	「ゆっくり 一緒に 楽しく」の理念を共有し支援の在り方に迷った時には理念に添ったサービスの提供を行う様に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は、運動会、敬老会と参加させて頂いていたが コロナ禍で地域との交流が難しいが地域の防災訓練に参加し交流を行った。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍前は、地区の公民館にて「ハッピーサロン」に参加させて頂き交流を深めていたが コロナ禍が続き地域との交流が出来ていない為 活かす事が出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、運営推進会議を行っていたがコロナ禍にて、現在は、書面にてホームの状況報告を報告し アンケートや意見を返送して頂いている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	退所者があり、空室が出来そうな時には、居宅事業者や包括、病院へ案内を行う事で情報交換など関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会があり全職員が身体拘束をしないケアを目標としている。入居者の安全が確保できない場合に限り家族同意のもとセンサーを使用し定期的にカンファレンスを行い見直しを行っている。玄関の施錠は玄関のみとしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会があり3ヶ月に1回施設内研修を行い学ぶ機会を持っている。また、言葉使いについても職員間で不適切な言葉が無い様に注意し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	Aユニットで後見人制度を利用されている方がおられるが学ぶ機会を設ける事が出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族が十分に理解、納得される様 管理者が説明を行い、契約内容をお互い確認しながら納得されたうえでの契約に努めている。また、ご不明な点については、いつでも尋ねて頂ける様 案内している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様、面会の折 ご意見やご要望を頂き運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議でその月の反省や次回に向けての計画を職員全体で話し合っている。職員の意見や提案を出し運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者から職員の日頃の勤務状況、勤務態度などの報告を受け、職員それぞれの得意分野の把握に努め、就業環境の整備に前向きにとり組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じ研修に参加していけるように積極的な参加、確保に努めリモートによる参加も行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、定期的に行われるGH連絡協議会にリモートと書面にて参加している。職員は、フリートークにて勉強会に参加していたが コロナ禍が始まってからは開催されていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時に不安等を聞き取り、プランに位置付け、総合的な援助の方針にも記載するようにしており、職員間でも情報共有し支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様より入所前の様子や、趣味、生活歴、不安な事や要望等を十分聞き取りながら気持ちに寄り添える様務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人及びご家族様が当施設を希望されて入所される事が殆どであるため、他のサービスの案内は行っていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一つの家族として仲良く暮らしていける様配席や能力に応じた作業やレクを通して交流が持てる様支援を行っている。また、テレビの出来事や新聞の読み聞かせで意見を聞き暮らしを共にする者同士の関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の状況を見ながら、ご家族様の面会時には状態報告を行い、また、病院受診や衣類の買い物等 家族との絆を大切に出来る範囲で面会して頂きご本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、知人等の面会があれば コロナ禍の状況をみて可能な限りお迎えし記念の写真を撮って、いつでも見れる様居室の壁に貼り関係が継続される様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず 利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努 めている	殆どの方がリビングで過されますが 利用 者同士の関係を把握し 仲良く暮らして行け るよう心掛け 支え合えるような支援に努め ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性 を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了するとほとんどの場 合、相談や支援も終了となるが		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努 めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プランを定期的に見直していく中で、聞き取 りを行い、困難な場合は日ごろの様子から 察してプランに位置付けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、こ れまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活については、入所前の状態 確認時に、聞き取りを行うようにしているが 聞き取りが不十分な時には入所後に本人、 ご家族様より情報提供を頂いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等 の現状の把握に努めている	プランの見直し時、また定期的にあセスメン トの見直しを行っており 利用者ごとに担当 職員を決め 細やかな把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につい て、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの 意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作 成している	担当者と介護計画作成者がそれぞれ本人と 面談を行い、プラン評価と暫定プランの作成 を行う。全職員が集まった場で暫定プランに 意見を頂き書き換えご家族に説明を行い、 本プランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別 記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介 護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは個別ファイルに記録 し ケアプランのサービス内容が実践された ときは番号を振り、月一回の経過報告とし て特記を含めケアの状況など提出が義務付け られておりプランに反映している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況等考慮しながら 受診の付き添いや床屋行き等 ご家族に負担がかからない柔軟な支援やサービスに取り組んでる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	車の乗車が負担とならない20～30分程度の地域内でアジサイ、河津桜、ひまわりなどの見学やいちご狩りなどに参加して楽しんで頂き 交流や気分転換を兼ねた支援を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の月1回の定期受診に同行し入居者の体調やひと月の状態を報告している。また、急変時も電話連絡を行い、適切な判断を仰ぎ、必要時は、受診に繋げている。また、他の病院受診については基本的に家族支援とさせて頂いている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ユニットには看護師がいない為 施設内の他ユニット看護師に相談や簡単な処置を依頼しているが 判断できないことは、かかりつけ医や薬剤師に相談を行い指示や受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先は概ねかかりつけの病院であることが多いため、同日にアセスメントを渡し情報提供を行うことで安心した治療が受けられる。また、密に連絡を行い、早期の退院に向けて情報共有に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約を行う時点で、重度化や終末期に向けた方針の説明を来ない、ご家族様に理解を得ている。また、終末期の支援ができる特養などの案内も必要時には紹介を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の備えとして、ビデオでの勉強会を実施し冷静に行動できるように理解していると思われるが、定期的な訓練は行っていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災時の避難訓練は、年数回昼夜間の設定で実施し 地区主催の防災訓練にも参加し地域との協力体制を築いている。また、日頃から火元周りやコンセントの差込口の点検などを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉遣いに気を付け、職員間でも注意し合い、適切な言葉遣いを心掛けている。また、トイレは、各居室に設置されており排泄時のプライバシーを損なわない様に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	私欲院の判断ではなく 本人の希望や要望が表現できるように 声掛けや活動に寄り添った支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操やレクリエーションなどは、全員で楽しく過ごしたいので、理念にある 一緒に楽しくを心掛けているが 自分のペースで過ごしたい方には、自由にして頂き、時々見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた衣替えを一緒に行い、自己判断ができる入居者様には、自分で自由に洋服を選んで頂いている。行きつけの美容室がある入居視様は、定期的にお連れしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	オープンキッチンである為 調理の音や匂いを楽しみながら過ごされている。また、野菜の皮むき、ゴマすり、もやしの根切りなど下ごしらえを手伝って頂いている。食後は食器類の片付けを一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量は個人ファイルに毎日記載している。給食委員会で栄養やバランスを考えた献立を作成している。食事の量や形態についても個別に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員、毎食後の口腔ケアは、一人一人の能力に応じた支援を行っている。必要に応じ磨き直しを行い 義歯は、週に一回洗浄剤にて消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けを行ったり、排泄のサインを見て誘導を行っている。また、起床から就寝するまでの排泄用品を変えるなどして、自立に向けた支援やパット使用を減らす支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳、豆乳の提供と十分な水分摂取を行い 腹部マッサージや排便効果のある飲み物の提供も行っている。また排便の有無を毎日記録し服薬調整や緩下剤などで便秘の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご希望の時間帯があれば対応し 入浴を希望されない方には別の日に声掛けを行っている。一人一人の力や希望に合わせ まずは自力で洗身して頂き出来ない部分の支援を行っている。入浴中は歌や会話でコミュニケーションを取っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に合わせ居室で休んで頂いたり、人の声やテレビ音がする中を希望される方はリビングにあるソファで休んで頂いている。夜間は、照明を夜用に変えて室内の温度を適温に調整し安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を個人ファイルに綴じ、職員間で情報共有を行っている。新しく追加された薬については、全職員に伝え、服用開始から状態や症状を特に注意深く観察するようにしている。服薬介助においてはダブルチェックで誤薬を予防している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器拭き、モップ掛け男性も夕方にはカーテンを閉めて回られる事を自ら役割を持って手伝って頂いている。嗜好品については、コーヒー、紅茶、牛蒡茶、ヤクルトなど一日一回は違った飲み物を提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	前月に予定を組んだり、職員の勤務状況と天候により急に外出支援を行う事もある。一人一人の希望に合わせて支援する事はコロナ禍でもあり難しく 地域の協力を得る事も難しい。近くの馴染みの名所へ行く事が多く喜ばれている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、事務所で預かっている事を説明し判断能力がある入居者様やお守り代わりに持たれる入居者様にはご家族の了解を得て所持や買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話は、希望があれば自由に使い ご家族からのお電話も取り次いで家族との触れ合いの時間を持たれている。また、毎月のお便りに ご本人の塗り絵や手紙を入れて郵送した事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節を感じる花や リビングには季節のタペストリーや飾りを作り 皆さんに季節を感じて頂いている。コロナ禍にて、換気と消毒を行いながら温度調節を行いながら居心地よい共同空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間において色々なタイプのソファを角度を変えて置いており気の合った同士がくつろげるペースで会話を楽しんだり思い思いに過ごして頂ける様な居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にあった家族写真や使い慣れた掛け布団や毛布、茶碗やコップなどを持って来て頂いている。また、お位牌には毎朝お茶を供えており自宅に近い居場所作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本、居室の変更をしない事にしているが状態に応じてリビングに近い部屋に移動して頂き安全を優先する事がある。居室入り口には、表札を下げ居室がわかる様にしている。廊下には手すりを設置してあり歩行訓練に利用して頂いている		